「キリストに対する固い信仰」　　2019 年 03 月 11 日

コロサイの信徒への手紙 2 章 1 節～5 節　わたしが、あなたがたとラオディキアにいる人々のために、また、わたしとまだ直接顔を合わせたことのないすべての人のために、どれほど労苦して闘っているか、分かってほしい。それは、この人々が心を励まされ、愛によって結び合わされ、理解力を豊かに与えられ、神の秘められた計画であるキリストを悟るようになるためです。知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています。わたしがこう言うのは、あなたがたが巧みな議論にだまされないようにするためです。わたしは体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの正しい秩序と、キリストに対する固い信仰とを見て喜んでいます。

「著者」は、コロサイ教会の信徒たち、近隣のラオディキア教会の信徒たち、また、顔を合わせたことのない全ての信徒たちのために、私パウロが、どれほど苦労して闘っているか、分かってほしいと訴えている。「それは、この人々が心を励まされ、愛によって結び合わされ、理解力を豊かに与えられ、神の秘められた計画であるキリストを悟るようになるためです」と言う。

パウロの宣教は、苦労の中で前進していた。ローマ皇帝を神と崇めるローマの植民都市フィリピで、ナザレのイエスを主キリストと宣教することは許されないと、何度も鞭打たれた後、投獄され、その夜、地震に見舞われたが、パウロとシラスは動じなかった。その行動に感銘を受けた看守は、パウロに教えを乞い、一家は洗礼を受けてキリスト者になった。アテネのアレオパゴスで哲学者たちを相手に知恵を尽くして語り出し、主イエスの死人からの復活を説き始めた時、彼らの反発を受け、宣教は無残に拒否された。傷心の思いでコリントに来た時、パウロは、十字架につけられたキリストを、知恵に溢れた言葉によるのではなく、聖霊の力にのみ頼って宣教すると心に決めていた。そして、ローマから退去させられていた、テント造りの職人アキラとプリスキラ夫婦の家で、テント造りをしながら宣教を始めた。苦難を負う底辺からの宣教を始め、コリント教会を立ち上げていった。エフェソで投獄された時のことをフィリピ書 1 章 13 節、14 節で下記のように書いている。「つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、主に結ばれた兄弟たちの中で多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになったのです。」監禁という苦難が逆に、宣教を前進させたと言っている訳である。パウロの宣教は常に苦労を伴ったが、それが人々の心に励ましを与えた。彼らは愛によって結び合い、理解力を豊かに与えられ、神の秘められた計画であるキリストを悟るようになったのである。

「知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています。」福音宣教は人間の知恵や力によるのではなく、キリストの内に隠されている「十字架の愚かさ」という知恵と知識の宝によって、露わにされていく。私が、このように忠告するのは、あなたがたが言葉巧みな議論に巻き込まれ、騙されないようにするためである。コロサイ教会の周りで、人々の心を魅了する宗教的な教えが広がっていたのである。「著者」は、このことを心配し、「わたしは体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの正しい秩序と、キリストに対する固い信仰とを見て喜んでいます」と、揺らぐことのないキリストへの信仰を喜び、信頼し、福音から離れないように諭している。